

磯根漁場の包括的管理による生産性向上研究

(予算区分 県単 研究期間 平成29～31年度)

担当：水産技術研究所伊豆分場 長谷川雅俊

【研究の背景とねらい】

伊豆地域ではイセエビやアワビ、サザエ等の貝類、テングサなどの磯根資源を対象とした磯根漁業が長年継続されてきましたが、漁獲量や漁業従事者の減少、磯焼け、テングサ漁場の荒廃などの自然環境の変化に伴い、地区内で確立されてきた伝統的な漁業と漁場利用が急速に崩れつつあり、新しい磯根漁業の構築が求められています。

本研究では、新しい磯根漁業の構築に向け、荒廃したテングサ漁場の回復手段として雑藻刈りを改良すること、アワビ資源の再生産効率を高める手法を確立すること、テングサ・アワビ漁場の配置と利用方法を検討することにより、漁場の生産性を高める方法の確立、その漁場の適正配置による包括的な地先海面の生産性の向上を目標とします。

【これまでに得られた成果】

- ・ テングサ漁場の生産性向上のために、播種、移殖、食害防除を併用した雑藻刈り改良試験を白浜地区の漁業者と協働で実施し、テングサの回復状況を調査しています。



雑藻刈り前

雑藻刈り後の播種(スポアバッグ)

テングサ漁場における潜水漁業者の日別作業位置

- ・ アワビの再生産効率向上のために、実験的に漁場の親貝密度を3～4倍に高めました。
- ・ 漁場のゾーニングの試行のために、モデル地区のテングサ操業実態を明らかにしました。潜水器漁業者は2時間の操業で、600～2,200 m²の面積を操業していました。今漁期はテングサの生育が悪く、漁期中にCPUEが150kgまで低下すると操業対象となりませんでした。安定した漁獲にはテングサ漁場拡大が必要不可欠なことがわかりました。

【期待される効果】

- ・ 地区としての磯根漁業ビジネスモデルが提案でき、磯根漁業の存続とともに若者の漁業への就労促進や磯根漁業生産物の安定供給が見込まれます。
- ・ 磯根漁業の再生により、漁業生産額の増加とともに伊豆地域の活性化が期待されます。

【今後の計画】

- ・ 雑藻刈り改良試験では、テングサの被度をモニタリングしており、春～初夏に試験区ごとの現存量を把握した後、漁業者による操業を予定しています。
- ・ アワビ親貝の高密度化による再生産効率向上試験では、晩春から初夏に加入量を調査します。
- ・ 漁場のゾーニングの試行では、漁業者と協働による雑藻刈りでテングサ漁場の拡大を検討するとともに、アワビ漁場での親貝場と稚貝場の配置について検討します。

(作成 平成30年4月)